

～山重校区でもコミュニティ協議会の検討がスタートしています～

■山重公民館長あいさつ (篠原治之)

校区の皆様には、かねてから公民館活動にご協力いただきありがとうございます。コロナ禍の中で思うような活動ができないところですが、校区内の皆様の安全で平和な明るい社会を目指して活動していきますのでよろしくお願い致します。さて、現在志布志市とも連携しながら、山重校区の新しい組織づくりの検討をしておりますので、ぜひ校区の皆様のご意見をお聞かせください。



■山重ふるさとづくり委員長あいさつ (若松光正)

ふるさとづくり委員会では、「国道269号守り隊出動」として、国道沿いの美化作業を行い、通学路の安全安心や環境整備等につとめております。また、グラウンドゴルフ等を通じて「ふれあい」「健康づくり」も推進しています。現在、「校区公民館」と「ふるさとづくり委員会」を合体して、組織を一本化することについて、役員会を重ねて検討しているところです。



■山重校区自治会長への説明会開催

令和3年11月6日に山重小学校体育館で、山重校区の自治会長を対象にして新しい「地域コミュニティ協議会」の説明会がありました。今後は、オール山重で地域づくりを取り組んでいこうというもので、具体的には「山重校区公民館」「山重ふるさとづくり委員会」「山重校区社協」がひとつの組織となって「山重校区コミュニティ協議会」を設置していこうというものでした。



■山重コミュニティ協議会設立準備委員会を立ち上げました

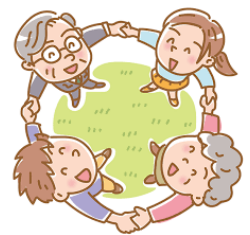
令和4年1月22日(土)に、山重校区公民館役員・ふるさとづくり委員会・学校関係・各種団体長が集まり、再度、市からの説明を受け、「山重コミュニティ協議会設立準備委員会」を立ち上げました。今後は、自治会長さんや校区内の皆さんの意見を聞きながら検討を進めていきます。

○委員長(篠原治之) ○副委員長(若松光正) ○書記会計(樺山弘昭)



■志布志市の新しい地域コミュニティづくりの方針

市では、人口減少や少子高齢化など複雑化する地域課題に対応するために、地域で活動されている様々な団体の連携を強め、地域の皆様が話し合い、自分たちの地域に必要なことを自ら決めて実行する仕組みとして、市内全域で「地域コミュニティ協議会」の設立を進めています。5年後・10年後を見据えた地域の活性化と発展についてみんなで考えていきましょう。

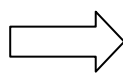


現在の課題



課題解決へ向けて

- ① 人口減少・少子化・未加入世帯の増
- ② 高齢化による福祉社会への対応
- ③ 自治会の活動困難
- ④ 役員・地域リーダーの養成
- ⑤ お互いの助け合いが必要



- ① コミュニティとは → 地域社会・共同体
- ② 共生・協働・助け合いの地域づくり
- ③ オール山重での協力体制
- ④ 自治会+各団体 = 新公民館組織
(公民館から校区コミュニティ協議会へ)

■「設立準備だより」を発行してまいります。

公民館はなくなるの？ なぜ今組織を変える必要があるの？ メリットは？・・・

地域における大事な課題ですので、今後、検討経過を「だより」で説明してまいります。

どうぞよろしくお願い致します。(今回の裏面にはアンケート調査結果を掲載してあります。)



令和3年度山重地区住民アンケート 結果概要



■令和3年7月にアンケート調査実施（回答数 443 人） その回答の中から地域づくり関係の概要を報告します。

質問 あなたは地域活動に関心がありますか？

回答	関心があり積極的に参加	(22%)
	関心あるがあまり参加していない	(35%)
	関心はないが付き合いで参加	(14%)
	関心ないし関わりたくない	(19%)

質問 親族にもこの地域に住んで欲しいと思いますか？

回答	そう思う	(40%)
	思わない	(19%)
	わからない	(36%)
	未記入	(5%)

質問 日常生活の中で不安や困っていることは？

回答	草取り・電化製品の修理など	(44 人)
	農地・山林の維持管理	(65 人)
	道路などの環境整備が不十分	(57 人)
	日常の買い物が不便	(42 人)
	自分の健康面が不安	(66 人)
	病院や診療科が少ない	(50 人)
	仲間と気軽に集まる場所がない	(47 人)

質問 あなたはこの地域に愛着がありますか？

回答	そう思う	(59%)
	思わない	(3%)
	わからない	(33%)
	未記入	(5%)

質問 山重地域内で誇れるものは？

回答	景観・自然環境	(152 人)
	助け合いなどの社会関係	(92 人)
	地域内で暮らす人々	(87 人)
	祭り・イベント等の諸行事	(70 人)

質問 今後、大切だと思うことは何ですか？

回答	地域や集落の付き合い	(205 人)
	道路の草刈りなどの維持管理	(253 人)
	地域内の環境美化・保全	(226 人)
	防災や救命などの消火活動	(234 人)
	避難訓練や緊急連絡体制	(217 人)
	見回りなどの防犯・交通安全活動	(212 人)

質問 ボランティア「おたすけ隊」について（計画中）

回答	利用してみたい	(63 人)
	サポーターとして登録したい	(37 人)
	知らない	(262 人)
	未回答	(83 人)

質問 地域でもっと女性や若者の声が反映されるべき？

回答	そう思う	(49%)
	思わない	(6%)
	わからない	(30%)
	未記入	(15%)



質問 他の地域から新たな定住者を受け入れるべき？

回答	そう思う	(48%)
	思わない	(10%)
	わからない	(36%)
	未記入	(6%)

質問 他の地域と交流を行っていきたいと思いますか？

回答	そう思う	(21%)
	思わない	(27%)
	わからない	(46%)
	未記入	(6%)

質問 今後もこの地域に住み続けたいと思いますか？

回答	そう思う	(65%)
	思わない	(4%)
	わからない	(26%)
	未記入	(5%)

アンケート結果のまとめ

アンケートを分析してみると、地域に誇りと愛着を持ちこの地域に住み続けたいと思っているものの、身の回りや地域の環境整備の面で不安や困りごとがあることが見受けられます。そして、今後は地域の付き合い・環境美化・防災等が大事であると考えている人が大変多くなっています。



地域の将来については、「女性や若者の声を反映させたい」「定住者を受け入れたい」という意見もあります。ボランティア活動には、利用してみたい人や逆にサポーターとして登録したい人もいます。



これらの意見をまとめると、『近い将来には、家庭でも地域でも、困りごとが多くなり、助け合いの社会と組織づくりが必要である』と考えられます。